

トマト黄化葉巻病耐病性品種から 収量・品質に優れた有望品種を選定

【背景・目的・成果】

兵庫県内では、トマト黄化葉巻病による被害(上位葉が黄化・萎縮し減収する)が発生しています。本病害は媒介虫であるタバコナジラミの防除対策に加え、経営面からは耐病性品種の導入も必要となります。

そこで、被害の最も多い高温期において(抑制作型)、収量性や品質等の優れた有望な耐病性品種を選定しました。



「アニモTY-12」

正常果率が高く、収量性に優れる。
糖度も高く品質面も良好。



「TYみそら86」

糖度が高い良食味品種。
また、草姿がコンパクトで早生性が高い。

表 耐病性品種の草姿・収量性および果実品質

	品種名	草丈 (cm)	正常果重 (g/株)	正常果率 (%)	糖度 (Brix%)	収量 性	果実 品質
平成24年度 抑制 養液土耕	アニモTY-12	171	951	56.6	5.5	◎	○
	TY桃太郎アーク	162	934	48.4	4.8	○	
	SYTM004	173	861	40.8	5.4	○	○
	TTM-061	154	585	34.5	5.0		
	NTO-TY04	175	518	22.1	4.8		
	TYみそら86	154	462	34.1	5.6		◎
平成25年度 抑制 水耕(NFT)	ニュー大安吉日	159	343	17.1	5.1		
	アニモTY-12	144	543	65.0	5.4	◎	○
	TY桃太郎さくら	147	488	54.5	5.1	○	
	SYTM-004	132	479	53.4	5.1	○	
	TYみそら86	133	310	50.0	5.9		◎
	ニュー大安吉日	132	265	28.4	5.2		
NTO-TY04	138	180	17.7	5.1			
TTM-061	133	143	22.5	5.4		○	



トマト黄化葉巻病

タバコナジラミが媒介するウイルス病で、トマト、ミニトマト、トルコギキョウで発病します。兵庫県では平成18年10月に初めて発生し、県南部を中心に被害が拡大しています。

【技術の活用】

耐病性品種は、トマト黄化葉巻病の症状は出ませんが、感染・保毒するため、感染源とならないよう、細密防虫ネット展張等の耕種的防除や薬剤防除も併せて行う必要があります。

耐病性品種は随時更新されるので、今後も継続して適品種選定を実施します。